

「かけがえのない人」

鳥取県 徳雲寺 住職 西村 伸也  
とく うん じ にしむら しんや

仏教の教えに「一日一日を大切に生きていかなければならない」とあります。しかし日々そのことを理解しているつもりでも、時には逃れることのできない困難や別れに直面し、その苦しみにどう向き合えばいいのかわからなくなり立ち止まってしまいう時もあると思います。

ある日、よくお寺にお参りになる田中さんご夫妻がいらっしやいました。ご夫妻は、毎週一回は必ずお二人そろって、ご本尊さまや、位牌堂にお参りして帰られます。私はお二人にお会いするたびに、「いつもお疲れ様です。最近調子はどうですか」と声をかけます。するとご主人が、いつもかぶっているお気に入りの帽子を取りながら「住職さんこんにちは。今日も拝ませてもらったよ。でも最近やっぱり足が悪くてね」などととりとめのない会話をしていました。

ある時、田中さんのご主人に突然の不幸が訪れました。私が葬儀のお勤めをさせていたいたのですが、悲しみにくれた奥様の姿を今も思い出します。ご主人亡き後、奥様の足がお寺から遠のかれたのは胸中察するに余りありました。

時がたち、田中さんの奥様がふらりとお寺にお参りに来られました。いつものように私声がかけますと、奥様は見覚えのある亡きご主人の帽子をとりながら「住職さん、私は夫が亡くなってから外に出るのが嫌になりました。このままではだめだとわかっていたのですが、娘に背中を押されても、どうしても外に出ることができませんでした。でも、ある時夫の帽子をかぶると、懐かしい匂いととも夫が隣で支えてくれているような気がして外に出る勇気が出てきました」と話され、私も温かい気持ちになりました。

限りある命、かけがえのない人と一日一日を大切に生きていくためには、ともに寄り添い支えあっていくことが大事なのではないでしょうか。別れの時が来ても、姿かたちは変わっても、今ここに私たちがいるのは、

そのかけがえのない人がいたからにほかなりません。その思いを忘れず、自分の心よりどころとして大切にしていけば、かけがえのない人への思いはつながるのではないのでしょうか。私たちは、かけがえのない人たちとの つながりの中で生きています。